

乳児の保育を通じた子育て支援

～保育原理の視点からみた保育内容および保育者のあり方の検討～

開田 (青山) 有希
小湊 真衣

Child care support through the baby childcare

～Study on contents of nursery care and child care style from the viewpoint of childcare principle ～

Yuki (Aoyama) Hirakida
Mai Kominato

キーワード：乳児保育、子育て支援、保育原理、保育者論、保育内容

Key Words : Infant child care, Child care support, Nursing principle, Teacher's point of view, Contents of child care

要約：本研究では、乳児クラスの保育の様子の映像を保育者養成校の学生に視聴させ、どのような場面が保護者の喜びにつながると思うか、また、子育て支援につながる保育内容や保育者のあり方をどのように感じ考えるかについて調査を行った。その結果、「保育者と子どもの様子や保育園のクラスでの関わりや過ごし方」「保育における友達との関わりの様子」を保護者が期待していると学生が考えていることが明らかになった。また、保護者が嬉しくなる場面として、室内遊びでの「保育者との関わりや遊びの場面」、離乳食場面での「食事の様子が分かる場面」、午睡の場面での「寝ている様子が分かる場面」、「保育中の子どもの様子が分かり、子どもがどのようなものに興味を持ち、外遊びしているかわかるもの」であると考えていることが明らかになった。本研究の結果を今後の保育者養成課程での教育で活用していくことが、今後の課題である。

Abstract : The purpose of this study was to investigate how students figure out the parents' pleasure in parenting. The participants of this study were 5 female students who study to be nursery teachers. The participants were asked to watch the video clips about preschool's environment and the children and teachers relationships in their daily program such as "Lunch time", "Play time in their classroom", "Play outside" and so on and complete the questionnaires. The result shows that students assess and anticipate the parents' needs in detail. And these imaginations seem to be the essential when they make the video clips and support parents in their nursery teachers' day.

1 目的とその背景

保育園の乳児クラスの懇談会では、日常の保育の様子を保育者が撮影したものを編集した映像が流されることが少なくない。その映像では子どもへの保育者の声かけ、離乳食の様子、室内遊び、外遊びの様子、保育園およびクラス的环境設定などが可視化され、保護者に示されることになる。わが子が保育園で楽しそうにしている姿をみることで、保護者自身が子育て支援を受けている事実を再認識し、子どもの育ちに対する喜びを実感することも少なくない。

保育所保育指針(厚生労働省, 2017)の「保育所の特性を生かした子育て支援」という項目では、保護者に対する子育て支援を行う際の留意点として、「各地域や家庭の実態等を踏まえるとともに、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に、保護者の自己決定を尊重すること」、および「保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めること」について言及されている。さらに「保護者との相互理解」という視点から、「日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めること」が求められており、「保育の活動に対する保護者の積極的な参加は、保護者の子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促すこと」と述べられている。こうしたことから、情報機器の機能向上が目覚ましい現代社会における保育場面では、子どもの日々の様子を収集した映像等を通じて保護者に子どもや保育の情報を伝達する機会が一層増加していくことが予想される。

福井ら(2008)は、保育園が「子育て支援の重要な拠点として機能していかなければならない」ことを指摘しているが、その拠点たる保育園における保育者のあり方について村山(2004)は、「子どもの保育にかかわることを通じて、親の思いや悩みを受けとめ励ましたり・支えたり、親同士の関係を調整したりして家族を結んだり、家族関係を支えたりする営みにかかわること」を挙げ、子育て支援における保育者のあり方の一つとしてコーディネートする機能に注目している。

また、特に乳児保育においては、保育所保育指針(厚生労働省, 2017)が「乳児保育に関わるねらい及び内容」で乳児期の感覚や運動機能の目覚ましい発達と情緒的な絆の形成に触れ、「これらの発達の特徴を踏まえて、乳児保育は、愛情豊かに、応答的に行われることが特に必要である」と述べているように、保育者が子どもに応答的に愛情を持って接することにより、その後の発達の基礎を形作るという機能も重視されていると言える。

多くの保育園の乳児クラスの懇談会で日常の保育の様子映像が流されているが、これは保育者がいかに日頃からきちんと愛情をもって応答的に子どもと関わっているかということ保護者に伝達し、チェックしてもらうことで安心感を持ってもらいたいというねらいのほか、日々めまぐるしく発達していく乳児の様子を実際に見てもらうことで保護者に喜びを感じてもらおうという子育て支援の意味合いも込めて企画されている。子どもの様子を保護者に伝える手段として、以前は言葉や写真、イラストなどが主な手段として利用されていたが、今後はこうした映像資料やデジタルメディアも伝達手段の一つとしてより一層活用されていくことが予想される。

したがって、このような現代社会における保護者への情報伝達方法の変化を踏まえ、本研究では、乳児クラスの保育の様子映像を保育者養成校に通う学生に視聴させ、彼らがどのように保護者の気持ちを想像するか、また、子育て支援につながる保育内容や保育者のあり方についてどのように感じ考えるかを明らかにすることを目的とした。それをもとに、保育原理の視点からみた保育内容や保育者のあり方を検討し、保育者養成校のカリキュラムにおいて、工夫すべき点等について考察を行うこととした。

2 方法

2-1 研究協力者

研究協力者は保育者養成校の学生 5 名であった。性別は全員女性で、平均年齢は 25.2 歳であった。

2-2 実施状況

調査は 2018 年 7 月上旬に「発達心理学特論」の講義時間を利用して実施された。

2-3 手続き

調査は自由記述式の質問紙を用いて実施された。質問項目は以下の 9 項目である。

Q1:懇談会において、保育園の様子を映像で見る時、あなたが保護者ならどんな場面をみるのを期待しますか？

Q2:実際にみた映像は、Q1 で記入したものと異なる場面はありましたか？

あった場合、期待と異なるものをみてどのように感じましたか？

Q3:室内あそびの様子をみた保護者はうれしい気持ちになると思いますか？具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになると思いますか？

Q4:離乳食の様子をみた保護者はうれしい気持ちになると思いますか？具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになると思いますか？

Q5:午睡の様子をみた保護者はうれしい気持ちになると思いますか？具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになると思いますか？

Q6:外遊びの様子をみた保護者はうれしい気持ちになると思いますか？具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになると思いますか？

Q7:保護者が映像の中でできた保育者の対応や声かけでうれしいと感じるのはどのような場面だと思いますか？

Q8-1:あなたが保育者として懇談会で映像を流すならどのような保育の場面を流すか構成を教えてください。また、その理由も教えてください。

Q8-2:その際にクラスの子どもの「保育の必要性の認定事由（労働/出産/疾病/介護/災害/就学/求職活動/虐待・DV/育児休業/その他）」を考慮して構成を考えますか？

ビデオ映像を視聴する前に質問紙を配布し、まず Q1 のみ記入を求めた。全員の記入を確認した後、保育園の 0 歳児クラスの保育の日常をまとめた映像を 20 分ほど視聴してもらい、視聴後に、Q2 から Q8 までの記入を求めた。Q3、Q4、Q5、Q6 については、自由記述欄に加え、その程度に関して「0:全くうれしくない」から「10:とてもうれしい」までの 11 件法で評定を求めたが、本稿では自由記述式で得られた回答を対象として分析を行った。

調査に用いたビデオは関東近郊の保育園の協力のもと 2010 年 4~5 月に保育者によって撮影・編集された映像であり、映像に含まれる情報は Table. 1 の通りであった。

なお、調査実施にあたり、調査対象者には倫理的配慮として、得られたデータは本研究以外に使用しないこと、および個人が特定されないように配慮することを口頭で説明し了解を得た。

Table. 1 映像の内容

| 時間 | 場所（登場人物と人数） | 人物の主な行動 |
|-----|------------------------------|----------|
| 7 分 | 保育室（子ども 8 名・保育者 4 名） | 室内遊び・巧技台 |
| 2 分 | 保育室（子ども 3 名・保育者 1 名） | ベビーマッサージ |
| 5 分 | 保育室（子ども 8 名・保育者 4 名・栄養士 1 名） | 離乳食・ミルク |
| 1 分 | 保育室（子ども 8 名） | 午睡 |
| 5 分 | 園庭（子ども 8 名・異年齢児数名） | 外遊び |

2-3 分析の方法

得られた回答を質問項目ごとに、KH Corder に入力して分析した。KH Corder は、テキスト型（文章型）データを分析するためのフリーソフトである（樋口，2014）。本研究では、得られた自由記述のデータから語を自動抽出し、語と語の結びつきを探る共起ネットワークを作成した。共起ネットワークは、抽出語またはコードを用いて、出現パターンの似通ったものを線で結んだものである。

なお、KH Corder には、原則として学生の記述内容を原文のまま入力したが、文意が変わらない範囲でいくつかの前処理を行った。具体的には、「他の子」「他の園児」→「友達」、「子」→「子ども」、「園」→「保育園」、「くみ取って」→「汲み取って」、「こんだて」→「献立」、「とか」→「など」、「うれしい」→「嬉しい」、「我が子」→「自分の子」、「かわいくて」→「可愛くて」、「坂」→「巧技台」、「のぼる」→「登る」、「よろこんで」→「喜んで」、「声掛け」→「声かけ」、「ご飯」→「昼食」、「観る」→「見る」、「とき」→「時」、「褒めて」→「ほめて」、「年齢の上の子」→「異年齢児」と変換して入力を行った。

3 結果と考察

全体での文数は 104 文、語数は 1544 語であった。Q1 の「懇談会において、保育園の様子を映像で見る時、あなたが保護者ならどんな場面をみるのを期待しますか？」という質問に対する回答を分析した共起ネットワークを Fig. 1 に示す。

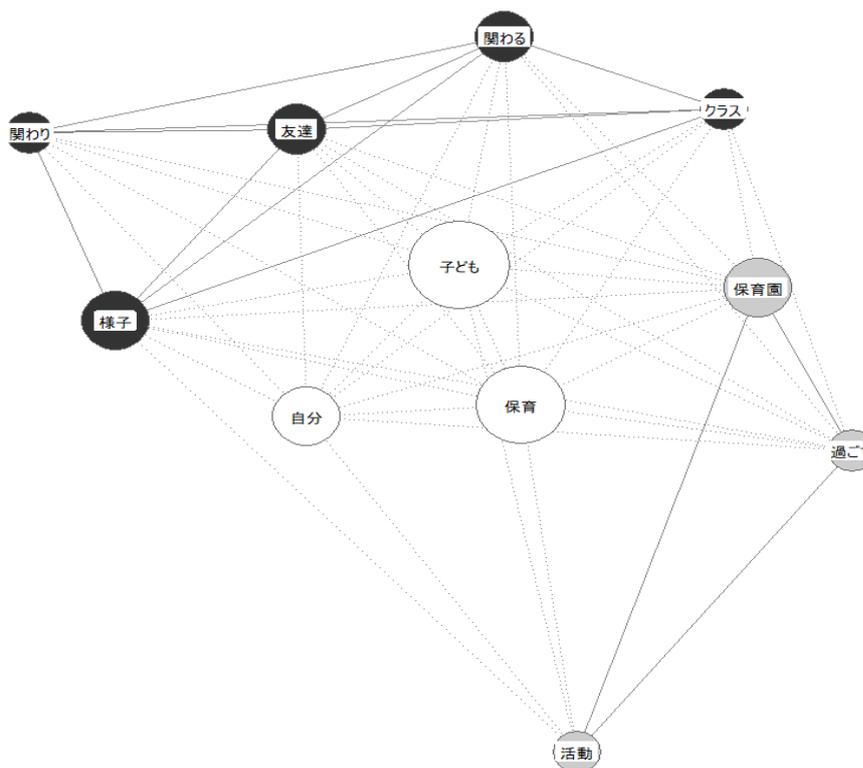


Fig. 1 懇談会で期待する保育園の様子の映像場面の共起ネットワーク

自由記述の回答数は全部で 21 文、214 語であった。共起ネットワークは、強い共起関係ほど、すなわち出現パターンの似通った語ほど太い線で、出現数の多い語ほど大きい円で描画される。また、語（node）の色分けは「媒介中心性」（それぞれの語がネットワーク構造の中でどの程度中心的な役割を果たしているかを示す）によるものであり、白から色の濃いものの順に中心性が高くなることを示す。

Fig. 1 の結果から、最も中心性が高い語彙は「子ども」、次に高い語彙は「保育者」、「保育園」、

「クラス」「関わる」「過ごす」であることが明らかになった。「子ども」「保育者」という語彙、「保育園」「関わる」「過ごす」「クラス」という語彙、「保育」「友達」「関わり」「様子」という語彙が、一定の結束性を持ったものとして抽出された。

このことから映像を視聴した学生たちは、もし自分が保護者であれば懇談会で「保育者と子どもの様子」「保育園のクラスで関わりや過ごし方」「保育における友達との関わりの様子」を見ることを期待するだろうと考えていた可能性が示唆された。

実際にみた映像が Q1 で記入した内容と異なっていたかどうかについての質問 (Q2) に対しては 2 名のみ「給食、ベビーマッサージ、午睡」「他の子との成長の差も見られていい」と回答しており、おおむね、自分が保護者であれば見たいと予想した映像場面が映像に含まれていたことが読み取れた。

Q3 の「具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになりますか？」に対する回答を分析した共起ネットワークは Fig. 2 の通りであった。

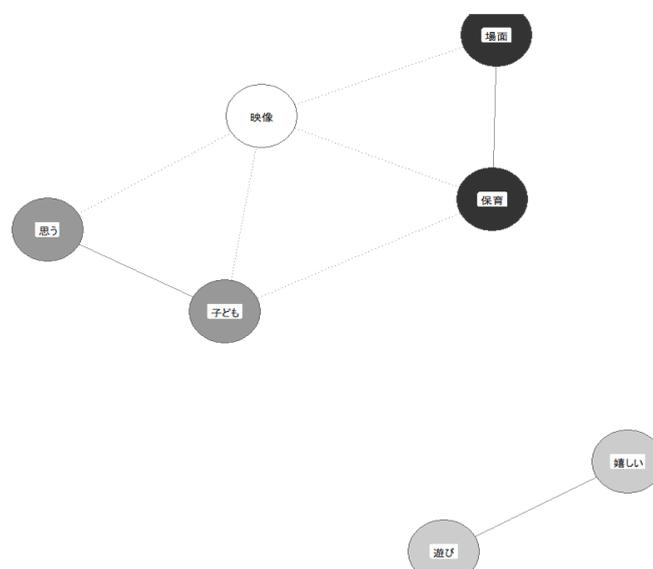


Fig. 2 保護者が嬉しくなる室内遊びの様子の映像場面の共起ネットワーク

自由記述の回答数は全部で 11 文、152 語であった。中心性が高い語彙は「保育者」「場面」「嬉しい」「遊び」であった。また、「保育者」「場面」という語彙、「子ども」「思う」という語彙、「遊び」「嬉しい」という語彙が、一定の結束性を持ったものとして抽出された。

このことから、保護者が嬉しくなる室内遊びの様子として、「保育園での子どもの様子を保護者はわからないため、映像を通して、保育者とどのように関わっているかという場面」「子どもは保育園で大丈夫なのかと心配に思うため、遊んでいる場面を見るのは嬉しい」と学生が予想していた可能性が読み取れた。

Q4 「離乳食の様子をみた保護者はうれしい気持ちになりますか？ 具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになりますか？」に対する回答の共起ネットワークを Fig. 3 に示す。

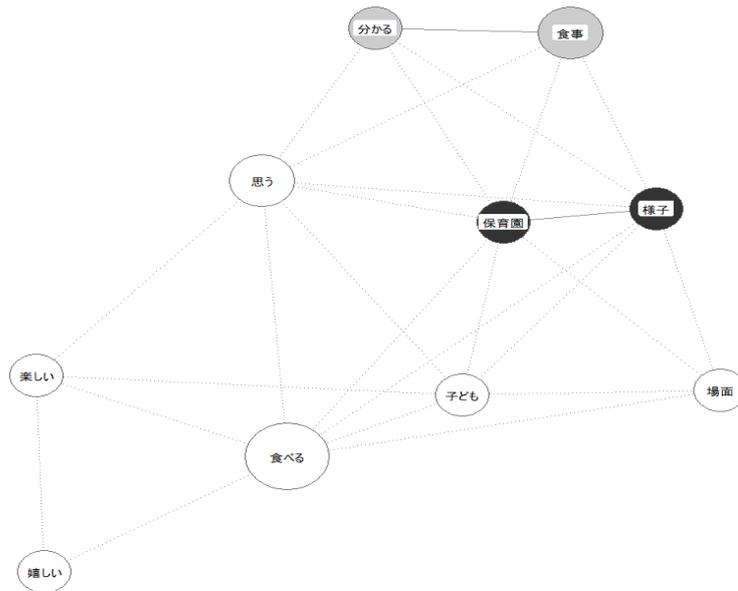


Fig. 3 保護者が嬉しくなる離乳食の様子の映像場面の共起ネットワーク

自由記述の回答数は全部で 13 文、158 語であった。中心性が高い語彙は「保育園」、「様子」であった。それらの「保育園」「様子」という語彙、「食事」「分かる」という語彙が、一定の結束性を持ったものとして抽出された。

このことから学生は、保護者が見て嬉しくなる離乳食の様子の映像場面として、「保育園での子どもの様子を保護者はわからないため、食事の様子が分かる場面」「子どもは保育園でちゃんと離乳食を食べているのかと心配に思うため、楽しそうに、嬉しそうに食べる場面を見るのは嬉しい」と予想していたことが読み取れた。

Q5「午睡の様子をみた保護者はうれしい気持ちになると思いますか？具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになると思いますか？」に対する回答の共起ネットワークは Fig. 4 の通りであった。

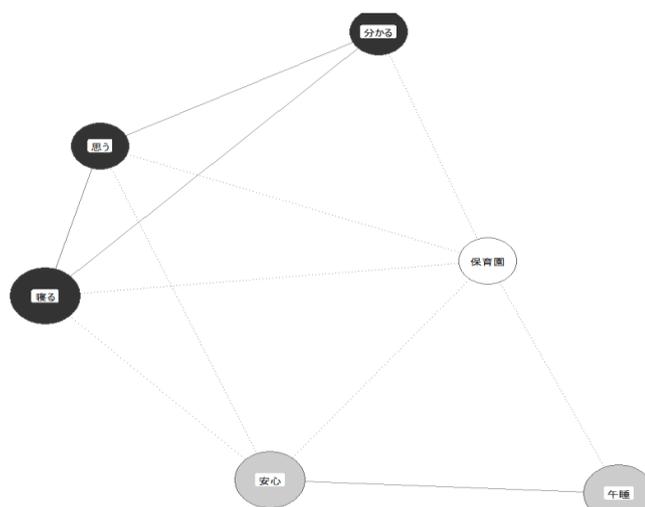


Fig. 4 保護者が嬉しくなる午睡の様子の映像場面の共起ネットワーク

自由記述の回答数は全部で 8 文、113 語であった。中心性が高い語彙は「寝る」「分かる」「思う」

であった。それらの「寝る」「分かる」「思う」という語彙、「安心」「午睡」という語彙が、一定の結束性を持ったものとして抽出された。

このことから学生は、子どもたちの保護者について「保育園での子どもの様子を保護者はわからないため、午睡中によく見てもらえているのかと心配に思うため、寝ている様子が分かる場面」「午睡中の様子が映像を通して分かることで安心する」と予想したことが読み取れた。

Q6「外遊びの様子をみた保護者はうれしい気持ちになりますか？ 具体的にどんな場面や様子が保護者はうれしい気持ちになりますか？」という質問に対する学生の回答を共起ネットワークとして示したのが Fig. 5 である。

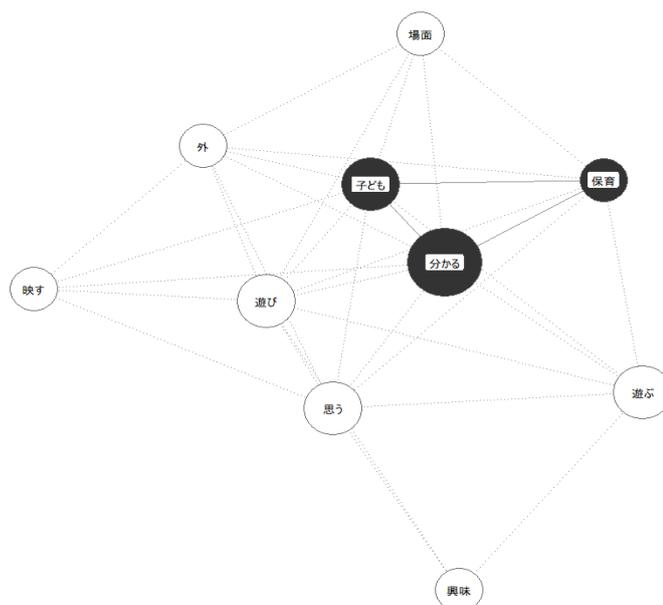


Fig. 5 保護者が嬉しくなる外遊びの様子の映像場面の共起ネットワーク

自由記述の回答数は全部で 13 文、162 語であった。中心性が高い語彙は「分かる」「子ども」「保育」であった。それらの「分かる」「子ども」「保育」という語彙が、一定の結束性を持ったものとして抽出された。

このことから、保護者が視聴することで喜びを感じるような外遊びの様子の映像場面として、学生は「保育園での子どもの様子を保護者はわからないため、保育中の子どもの様子が分かり、子どもがどのようなものに興味を持ち、外遊びしているか映されていると嬉しい」と考えたことが読み取れた。

Q7「保護者が映像の中にでてきた保育者の対応や声かけでうれしいと感じるのはどのような場面だと思いますか？」という質問に対する回答から得られた共起ネットワークを Fig. 6 に示す。

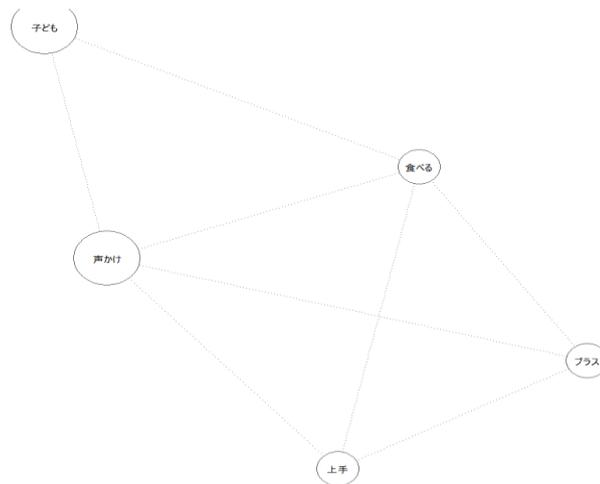


Fig. 6 保育者の対応・声かけで嬉しいと感じる場面・様子の共起ネットワーク

自由記述の回答数は全部で 12 文、192 語であった。中心性が高い語彙は抽出されなかった。その一方「声かけ」「子ども」「食べる」「上手」「プラス」という語彙が、それほど強くはないものの一定の結束性を持ったものとして抽出された。

このことから、保護者が嬉しいと感じる保育者の対応・声かけの映像場面としては「食べる時に『上手ね』などのプラスの声かけを子どもにすること」であると学生が感じ考えたことが読み取れた。

Fig. 7 は、Q8-1「あなたが保育者として懇談会で映像を流すならどのような保育の場面を流すか構成を教えてください。また、その理由も教えてください。」という問いへの回答に関する共起ネットワークである。

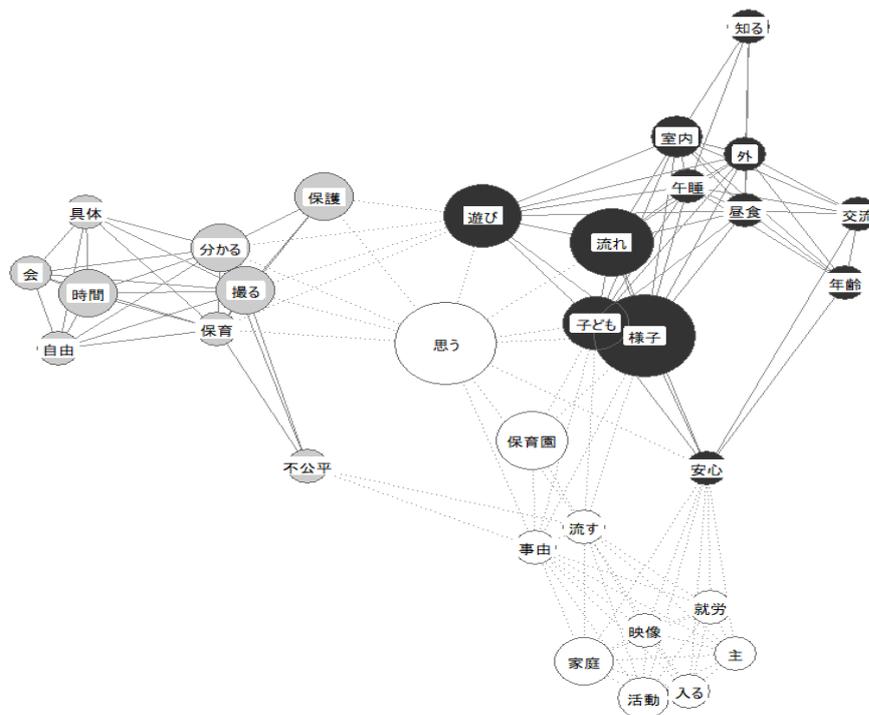


Fig. 7 保育者として懇談会の映像で流したい場面の構成と理由の共起ネットワーク

自由記述の回答数は全部で 26 文、553 語であった。中心性が高い語彙は「午睡」「昼食」、「分かる」「遊び」「保育」「撮る」「保護者」「不公平」「時間」「自由」「具体的」「会」、「異年齢児」「交流」であった。「昼食」「午睡」という語彙、「分かる」「遊び」「保育」「撮る」という語彙、「時間」「自由」「具体的」「会」という語彙、「家庭」「入る」「就労」「主活動」「映像」という語彙、「異年齢児」「交流」という語彙が、一定の結束性を持ったものとして抽出された。

このことから、保育者養成校の学生は、保育者として懇談会の映像で流したい場面の構成として、「保育園での一日の流れや様子が分かるように、外遊び、昼食、午睡、室内遊びという順」「外遊びの際は、異年齢児との交流や具体的にどのような保育や自由な遊びが展開されているかが保護者に分かるように撮りたい」と考えていることが伺えた。また、「保育園に入る時の認定事由は、就労要件の家庭が多い」と想定しており、「就労家庭だとなかなか子どもとゆっくり関われないため、主活動の様子を映像に流すことで保護者が安心する」と考えていることが伺えた。その際に、就労要件以外の事由で入園した家庭がいた場合、「撮り方に不公平があること」で生じる不満を心配する様子も伺えた。

Q8-2 の構成を考える際に、認定事由（労働/出産/疾病/介護/災害/就学/求職活動/虐待・DV/育児休業/その他）を考慮するかとの問いについては、4 名が「考慮する」、1 名が「考慮しない」と回答していた。このことから、虐待・DV などの配慮を要する認定事由で入園した家庭の子どもがクラスにいた場合、懇談会で保育の様子を映像で流す場合に、構成を考慮するべきだと学生が考えたことが読み取れた。

4 総合考察

本研究では、乳児クラスの保育の様子を映像を保育者養成校の学生に視聴させ、どのような場面を保護者が嬉しいと感じるかを推測させるとともに、子育て支援につながる保育内容や保育者のあり方について学生がどのように感じ考えるかについて検討を行った。その結果、以下の 4 点の知見が得られた。

①懇談会で保護者が期待する保育園の様子を映像場面として学生は、「保育者と子どもの様子や保育園のクラスでの関わりや過ごし方」「保育における友達との関わり様子」を予想していた。

②保護者が嬉しくなる場面として学生は、室内遊びでは「保育者との関わりや遊びの場面」、離乳食場面では、「食事の様子が分かる場面」「楽しそうに、嬉しそうに食べる場面」、午睡の場面では、「寝ている様子が分かる場面」、外遊びでは、「保育中の子どもの様子が分かり、子どもがどのようなものに興味を持ち、外遊びしているかわかるもの」などを想定していた。

③保護者が嬉しいと感じる保育者の対応・声かけとして学生は、「食べる時に『上手ね』などのプラスの声かけを子どもにする」ことを予想していた。

④懇談会の映像の構成として学生は、「保育園での一日の流れや様子が分かるように、外遊び、昼食、午睡、室内遊びという順」を考えており、「外遊びの際は、異年齢児との交流や具体的にどのような保育や自由な遊びが展開されているかが保護者に分かるように撮りたい」と考え、「保育園に入園する際の認定事由は、就労要件の家庭が多い」と想定し、また「就労家庭だとなかなか子どもとゆっくり関われないため、主活動の様子を映像に流すことで保護者が安心する」と考えて、就労要件以外の事由で入園した家庭がいた場合、「撮り方に不公平がある」ことへの葛藤を覚えていた。

保育原理とは、永見（2006）によると「保育という営みに従事する際、誰もが共通に認識すべき保育に関する基本的で、本質的な知と実践の営み」とされている。本調査の結果から、学生は「保育園に入る時の認定事由は、就労要件の家庭が多い」と想定していることが明らかになった。確かに共働き世帯が増えている昨今では、就労要件で認定された家庭は多い。しかし、認定事由は変わ

ることもある。例えば、保護者のどちらかが病気のため仕事を休職・退職した場合は、疾病事由になる。他には、就労要件で認定されたものの、妊娠・出産を経て新たな家族が増えて、保護者のどちらかが育児休業を取得した場合は、育児休業事由になる。虐待・DV事由で他の自治体から転居しての入園ということもある。このように様々なケースがあることを、保育者が共通して認識していることが保育原理の視点から必要といえる。それゆえ、保育者養成課程において、就労以外の要件で入園する家庭についての事例検討などで学ぶ機会の提供が必要であるといえる。

また、本研究では「分かる」という語の抽出が多く見られた。保護者は、日中、認定された事由により乳児と離れているため、保育園に子どもを預けている。また、預けている子どもが乳児であるゆえ、自分の子どもから保育園の感想を聞くことは難しく、なかなか保育園の様子を見聞きすることができないという構造にある。それゆえ、懇談会で映像を流すことで保育内容や保育者のあり方が可視化され、分からなかった保育の様子が「分かる」ことに加え、保育内容や保育者のあり方が「分かる」ことで、保護者の安心感に繋がると考えられる。また、自分の子どもが保育園で楽しそうに保育者や友達と関わっていることが「分かる」ことは、「心のエネルギー」(菅野, 2012)の充足にも繋がる。心のエネルギーが充足された保護者は明日からの子育ても頑張ろうと思うことができ、それは立派な子育て支援であると言えるだろう。それゆえ、保育者養成課程では保育内容や保育者のあり方が保護者に伝わるようなお便りや映像等の作成について学ぶ機会の提供が必要である。

具体的な保育内容については、学生は、保護者に「保育園での一日の流れや様子が分かるように」と考え、かつ、「外遊びの際は、異年齢児との交流や具体的にどのような保育や自由な遊びが展開されているかが保護者に分かるように撮りたい」と考えていた。児嶋ら(2018)は、保育内容では「同年齢や異年齢の子ども同士のかかわりの場を意識的に作ること」の重要性を指摘し、その理由として、「家庭では上下関係が多く(子ども対親、兄対弟のように)、対等な関係はなかなか経験できない」ため「自己主張し、互いに譲らない経験をすることによって相手の存在に気づく」と述べている。それゆえ、保育者養成課程では、実習中に「同年齢や異年齢の子ども同士のかかわりの場」に着目し、そこでの気づきを書くように指導するという方法も必要であろう。

また、本研究では保育者のあり方として、プラスの声かけをすることが重要であると学生が考えていることも明らかになった。それゆえ保育者養成課程では、川喜多ら(2006)が提言するように、保育者が自らの保育をふりかえるためのチェックリストを実習後等でも用いるなどして、意識的にプラスの声かけを増やしていけるような工夫やシステムを取り入れることも、今後の課程の中で視野に入れていく必要があると考えられる。

5 課題

本研究では、乳児クラスの保育の様子の映像を保育者養成校の学生に視聴させ、保護者が嬉しいと感じ、子育て支援につながる保育内容や保育者のあり方について学生がどのように感じ考えるかを明らかにすることを目的に検討を行った。本調査では様々な示唆を得ることができたが、今回の調査では学生の側の推測に焦点を当てていたため、実際に保護者がどのような映像を見ることで安心感を覚え、子育て支援につながるのかについては更なる研究が必要である。したがって、今後は保護者からの意見も抽出し、子育て支援につながる保育内容や保育者のあり方を検討する必要があるといえる。また、今回は乳児クラスの映像を刺激として使用したが、乳児クラス以外の保育場面を映した映像ではどうか、映像の編集の仕方や画像の提示の仕方、もしくはBGMやテロップの使用などで映像に対する印象がどのように変わるのかなどについても、今後検討を重ねる必要があると言えるだろう。

引用文献

- 福井逸子・小栗正裕・瀧川光治 (2008) . 「子育て支援力」育成のための保育士養成教育に関する研究(1)短期大学へのアンケート調査の分析を通して 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要, 1, 135-150.
- 樋口紘一 (2014) . 社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー ナカニシヤ出版.
- 菅野 純 (2012) . いじめ 予防と対応 Q&A73 明治図書.
- 川喜田昌代・清水益治・民秋言・千武夫・佐藤直之・西村重稀 (2006) . 保育者による保育内容の自己評価に関する研究 白梅学園大学・短期大学紀要, 42, 1-11.
- 児嶋雅典・舛森保子・浅井 広 (2018) . 保育内容総論の構想とその展開ー保育者養成教育課程における役割と保育者の計画性・意図性ー 松山東雲女子大学人文科学部紀要, 27, 11-41.
- 厚生労働省 (2017) . 保育所保育指針.
- 村山祐一 (2004) . 育児の社会化と子育て支援の課題について(〈特集〉少子社会と子ども・学校・家族) 教育学研究, 71 (4), 435-447.
- 永見 勇 (2006) 保育とはどのような営みを意味するのか : 保育原理、科学的態度、人間の存在のあり方との関連で 名古屋柳城短期大学研究紀要, 28, 1-11.